KLiS TODAY

No. 40

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日1-2　Tel 029-859-1110　Fax 029-859-1162
URL https://klis.tsukuba.ac.jp/　E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

いもむしからの問い：変化のなかで考える大学時代を

香海　沙織

The Caterpillar and Alice looked at each other for some time in silence: at last the Caterpillar took the hookah out of its mouth, and addressed her in a languid, sleepy voice. “Who are you?” said the Caterpillar.
This was not an encouraging opening for a conversation. Alice replied, rather shyly, “I hardly know, sir, just at present—at least I know who I was when I got up this morning, but I think I must have been changed several times since then.”

Alice's Adventures in Wonderland by Lewis Carroll
Advice from a Caterpillar*

みなさん、こんにちは。知識情報・図書館学類長の呑海です。本学類では、図書館文化史論、PBL型図書館サービスプログラム開発、知識情報演習Ⅰを担当しています。

コロナ禍が続く中、オンライン授業や、3つの密（密閉、密集、密接）を回避するコミュニケーションに、対応できていますか。新型コロナウイルスは、瞬く間に私たちの行動様式を変えつつあります。マスクが必須となり、行動が制限されるようになりました。私自身、関西に住む家族と、もう1年半も会うことができていません。そして図らずもそのことが、家族と自分の関係や、自分自身を見直すことにつながっています。

アリスはいもむしから、「あなたはだれ？」と尋ねられます。変態するいもむしからの問いです。ところがアリスは返事に困ってしまいます。思いがけず迷い込んだ不思議の国で、これまでにない体験をくりかえすことによって、自分がだれなのかがわからなくなってしまったからです。

新型コロナウイルスのパンデミックによって私たちは、いわば不思議の国に放り込まれた状態にあります。これまでの考え方や常識が変化していく中で、いかに自己を失わず、確立していくのかが問われます。変化を受容して、一緒に考えていきましょう。大学時代ほど、考えることに時間を費やせるときはありませんから。

（どんかい・さおり　知識情報・図書館学類長　教授）

＊ Advice from a Caterpillar. Project Gutenberg's Alice's Adventures in Wonderland, by Lewis Carroll. https://www.gutenberg.org/ebooks/28885, accessed:2021/6/15

想像力をつないでいくこと

吉田　右子

２回目の緊急事態宣言の解除から２週間、新型コロナウイルス感染症の流行が続く厳しい状況の中で、2021年度の新入生オリエンテーションが始まりました。オリエンテーション３日目の自己紹介を兼ねたグループワークでは、最初こそ緊張感が漂っていましたが、ほどなく教室のあちこちで控えめな笑い声が起こりはじめました。30分が経過するころにはさらに会話が弾み、終了時刻を告げることがためらわれるほど打ち解けた様子が印象的でした。4月11日には、第１回目の緊急事態宣言の只中に入学し、厳しい環境で大学生活の１年目を乗り越えてきた２年生が、オンラインでの新入生歓迎コンパ「ずうむ新歓」を開催してくれました。

この文章を書いている６月上旬、春日キャンパスで最大人数を収容できる講堂で、毎週１回、必修科目「フレッシュマン・セミナー」を対面で実施しています。授業の前後に友人同士で語り合う姿を目にしながら、授業の多くがオンライン開講される中でこの授業が週一度、対面で同級生と会える貴重な時間となっていることを強く感じます。

大学では昨年度から、新型コロナウイルス感染症によって厳しい状況に置かれた筑波大生をサポートするための工夫を重ねてきました。「筑波大学ピアサポートチーム」、「海外協定校学生との交流イベント(Tsuku-Chat)」「つくばアクションプロジェクト（T-ACT）」など、たくさんの支援プログラムがあります。フレッシュマン・セミナーでは、そうした支援プログラムの存在を積極的に伝えるようにしています。そんな中でみなさんにお願いしたいことがあります。それはどんなサポートが必要なのか、大学に対して積極的に伝えてほしいということです。

COVID-19がもたらした社会の大きな変化の中で、お互いに語り合い、よりよい方策を見つけ出していく公正なプロセスが強く求められています。知識情報・図書館学類はそうした開かれた対話のプラットフォームについて専門的に学ぶ場所です。みなさんのしなやかな想像力をつないでいくことで、新しい大学と社会を作っていきましょう。そして知識情報・図書館学類での学びを通じてあなたの夢を叶えてください。

（よしだ・ゆうこ　知識情報・図書館学類　教授）

筑波大学ピアサポートチーム on Twitter
https://twitter.com/happytsukuba

過去と現在の記憶・記録をどう継承するか

村田　光司

小説やゲーム、マンガなど様々な作品で、しばしば古い過去の偉人やその暮らしぶりがモデルになっているのを目にします。大河ドラマでは、時には数百年以上も前の人々がまるで見てきたかのように描かれます。もちろん現代の想像力で補っているとはいえ、どうして私たちは古い世界の知識をこれほど持っているのでしょうか。

お察しの通り、それは当時の文献や手紙、絵画や遺物といった記録が残っていたり、あるいは口頭で伝承されていたりするからです。そうした広い意味での過去の資料は、現在では博物館や図書館、文書館、あるいは個人の家など、様々な場所に保管されています。歴史学者をはじめとする古い時代の専門家が、こうした資料を吟味し、確かだと思える情報を私たちに伝えているわけです（おかげさまで歴史の教科書は覚えることがいっぱいです）。

それでも、私たちが知る過去の出来事や資料は、実際に起こったことや作られたもののほんの一部にすぎません。人間の記憶や記録は、残そうという努力をしない限り、ほとんどが消失してしまいます。現代に伝わる過去の情報の多くは、時代を超えた多くの人々の意志によって生きながらえているのです。

今の私たちが持つ記憶や記録はどうでしょうか。すぐにでも消し去りたいものもあるかもしれません。しかし過去から引き継いだ大事な資料はもちろん、たとえば国の公文書や災害の記憶といったものは、過去を検証し、より良い未来につなげるために管理していかねばなりません。アーカイブズ学と呼ばれる研究分野が、まさにこの課題を考えるための鍵になります。

着任のご挨拶：2021年3月に着任しました、村田光司と申します。専門はアーカイブズ学と歴史学で、特に前近代ヨーロッパで作られた資料の管理や伝来について研究しています。学類ではアーカイブズ関連の科目や「テクスト解釈-2」などを担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

（むらた・こうじ　知識情報・図書館学類　助教）

中央アジアでの発掘資料調査

オンライン授業に対する個人的な感想

高久　雅生

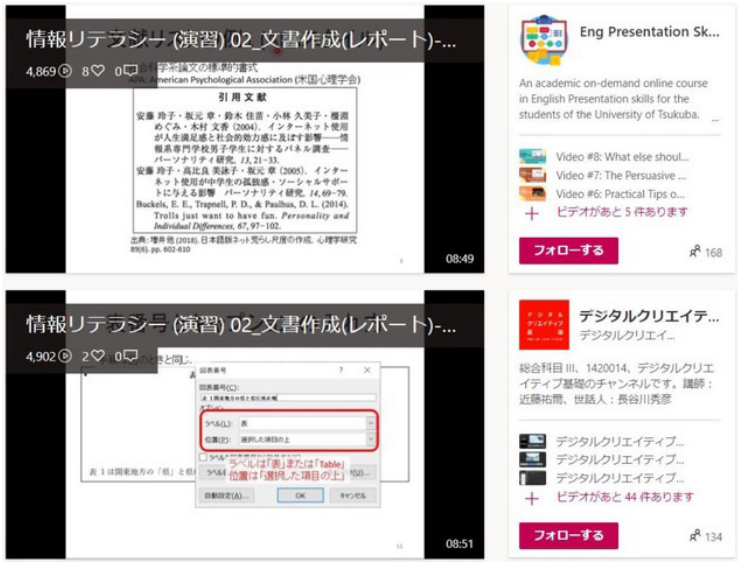
本稿執筆時点で、新型コロナウイルス感染症拡大にともなう状況は先行き不透明で、いまだ一種の混乱と不安のなかで過ごしています。筑波大学でもこの状況にあわせて、2020年度春学期からオンライン授業が始まりました。その後、感染状況の落ち着きなどから、一部で対面授業を行っていますが、ソーシャルディスタンスを要するなどの制約も大きく、学類の科目の多くでオンライン授業が継続しています。

さて、個人的な経験から言えば、オンライン授業開始にあわせて、特に、オンデマンド型で授業資料と解説ビデオを用いた授業を行うにあたっては、私自身、授業のやり方に対する刷新が必要でした。「授業する」ということばの意味するところが、講義内で話す内容を考えるということから、授業全体を通じた学びそのものをどうサポートするかというところへの捉え方の転換が必要でした。特に、目の前にいない学生が講義内容をどの程度理解したかを確認する小テストを検討したり、授業内での学生側の質問を素早くフィードバックして学習効果を高めたりという部分に授業の重心を移すという転換に至るまで、最初の数週間を要してしまいました。

近い将来のコロナ禍の収束後に教室での対面授業に戻れたとしても、このたびのオンライン授業によって得られた考え方の転換は今後も活きるのではないかと思っています。たとえば、対面授業のなかでもオンデマンド型の資料を活用して、よりよい学習効果が得られるような取り組みにつなげられないかと考えています。

最後に、コロナ禍のなかで本学の学生諸君が真摯に授業と学習に向き合い、時々に応じて適宜フィードバックや提案を与えてくれたことに感謝を述べつつ、そして、教員こそが学生とともにこのような新しい環境下で学べたことに改めて謝意を表したいと思います。ICT環境における学びは学生のみの特権ではなく、教職員にこそ求められるものとの実感から、引き続き学類の学びの向上を図っていきたいと思っています。

（たかく・まさお　知識情報・図書館学類　准教授）



学生から見たMicrosoft Stream画面